

# 東日本大震災 教育復興支援レポート2014



## CONTENTS

- 01 MUFG・ユネスコ協会  
東日本大震災復興育英基金
- 02 企業・団体との協働支援活動
- 03 ユネスコ協会就学支援奨学金
- 08 会計報告
- 09 ご協力いただいた皆さま

## 子どもが描く夢こそが、復興の道しるべ

東日本大震災から4年の月日が経過しました。被災地では、土地のかさ上げや区画整理をはじめとする新しい町づくりに向けた復興工事が本格化しています。

子どもたちを取り巻く生活環境は、多くの方々からの温かいご支援と親御さんたちの懸命なご努力によって、徐々に回復してきているものの、元の生活を取り戻すにはまだまだ長い道のりがあります。

被災地への関心がだんだんと薄れる中、変わらず東北の子どもたちに想いを寄せてくださる全国の支援者の皆さまのお力添えによって、私たちの活動は支えられてきました。

これからも子どもたちが安心して学校生活をおくり、のびのびと夢を描けるよう、現地の声に耳を傾け、支援活動を継続してまいります。

引き続き、皆さまの温かいご協力をよろしくお願い申し上げます。



# MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

子どもたちの笑顔のために、高校卒業時まで物心両面での支援を継続

## ■奨学金事業

概 要	支援実績
<p><b>対 象 者：</b> 東日本大震災発生時に災害救助適用地域に居住しており、両親もしくはいずれかの保護者が死亡・行方不明となった子どもで、小学校から高等学校に在籍していた児童生徒。（2012～2014年の各4月に小学校に入学した児童も対象）</p> <p><b>支援金額と期間：</b> 奨学生一人当たり一時金10万円＋月額2万円を高校卒業まで給付。</p> <p>※本奨学金事業は、2014年度に小学校に入学した子どもが高校を卒業する2025年度まで継続するものです。</p>	<p>2014年度は、これまでに受給した奨学生への継続給付を行うとともに、新小学1年生の新規募集を行いました。2014年度は120名の奨学生が高校を無事卒業し、奨学金の給付を終えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2014年度受給者数:1048名</li> <li>● 2014年度奨学金給付額:2億5784万円</li> <li>● 2011～2014年度累計受給者数:1480名</li> </ul> <p>※新規奨学生募集は、2014年度の小学1年生の募集をもって終了しました。</p>

### 奨学生からのメッセージ

「私は3月に高校を卒業して、その後無事進学先も決まり、いま大学へ通っています。高校生活では、部活動、修学旅行、日常生活でもたくさん思い出ができました」

「いつもご支援いただきありがとうございます。私はこの春、無事高校を卒業し大学生になります。(中略) 将来は宮城に戻って、大学で学んだことを活かし、復興の手助けをしたいと思います」

### 奨学生の保護者からのメッセージ

「娘が小学生の頃、亡くなった父親に料理をつくって『おいしい』といわれたことがうれしかったと、震災後に話を聞きました。将来は調理師になりたいといまの高校を選び、2年生からは調理師になるための勉強が始まります。将来の夢に向かって頑張ってほしいと思います」

### 担当者からのメッセージ

「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」は、創設されてからおよそ4年が過ぎました。私たち事務局のスタッフは、奨学生の子どもたちから届くお手紙や、生活状況の報告を読むたびに、この仕事のやりがいを感じています。

MUFG各社の皆さまとともに、現在小学1年生から高校3年生までの奨学生が高校を卒業するまで、しっかりと見守っていきたいと思います。

※MUFG：三菱UFJフィナンシャル・グループ

## ■学校花壇再生プログラム

概 要	支援実績
<p>基金の一環として、津波被害や除染作業などにより学校花壇が失われた被災校で、花壇を再生する活動です。三菱東京UFJ銀行をはじめMUFG社員ボランティアが、土の入れ替えや花苗を植える作業を行いました。学校花壇の再生を通して、子どもたちの生活環境に彩りを添え、健やかな成長への心のケアにつなげます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2014年度実施:5校</li> <li>● 参加したMUFG社員ボランティア:144名</li> <li>● 実施校: 岩手県／岩手県立宮古工業高校 宮城県／亶理町立荒浜中学校 福島県／いわき市立藤間中学校、南相馬市立石神中学校、福島県立 勿来工業高校</li> </ul>



**ご支援いただいた企業：**  
三菱東京UFJ銀行をはじめ、  
三菱UFJフィナンシャル・グループ各社

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金 詳しくは、<http://www.unesco-scholarship.jp/> をご覧ください。

# 企業・団体との協働支援活動

## 〈減災教育〉

### ■アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

震災の経験と学びを全国の学校防災につなげるために

被災地への支援活動を継続するとともに、震災の経験や教訓を東北だけの記憶にとどめることなく、全国の学校防災につなげる取り組みを開始しました。

日本各地でさまざまな自然災害が発生している昨今、防災・減災への取り組みの重要性が高まっています。本活動は、アクサ生命保険株式会社の協力を得て、災害時に重要な防災拠点となる「学校」の防災・減災教育をサポートします。とりわけ、自然災害においては、被害を完全に防ぐことが困難であることを前提に、被害を最小限に抑えることを目指す「減災」の観点が大切です。校内の避難訓練を中心とした従来型の活動にとど

まらず、災害に対して総合的な視点を持ち、より実効性のある防災・減災教育の普及を目指します。

第1回目の2014年は、防災・減災教育を充実させたいと考える全国の小・中・高校を公募し、選出された20校に助成金を支給しました。あわせて、助成校の先生を対象にした教員研修会や活動報告会を開催し、学校の防災力の向上を支援しました。とくに教員研修会では、東日本大震災の被災地・宮城県気仙沼市を訪問し、大震災の経験と教訓をもとにした同市の防災・減災教育の実践を学ぶとともに、各地の特性にあった減災教育につなげるための議論を行いました。



各校での減災教育では、児童生徒が主体となった取り組みや、地域住民と連携した実践が多く見られた



選出された20校の教員が気仙沼の地で研修会に参加した



活動報告会では、教員同士が地域を超えて真剣に議論を交わし学び合った

**ご支援いただいた企業：アクサ生命保険株式会社**

コーディネーター：及川幸彦／宮城教育大学国際理解教育研究センター  
教員研修協力：気仙沼市教育委員会、宮城教育大学国際理解教育研究センター、  
京都大学大学院地球環境学堂、特定非営利活動法人SEEDS Asia、  
気仙沼市立鹿折小学校、気仙沼市立階上中学校

## 〈コミュニティ支援〉

### ■相撲場建設

力士たちの思いが被災地の相撲文化をつなぐ

力士会（会長：白鵬関）の協力を得て、2つ目の相撲場が宮城県気仙沼市に再建されました。落成式には、白鵬関をはじめ8人の力士が出席。「世界に羽ばたく人材がここから育ってほしい」とエールを送りました。

**ご支援いただいた団体：力士会**



## 〈交流活動・学習支援〉

### ■子どもたちとのふれあい支援

社員ボランティアが被災地を訪問し、保育園などの施設の要望に対応して、児童や園児たちとふれあう活動などを実施しました。

●実績：岩手県／宮古市、宮城県／名取市、東松島市

**協働していただいた企業：**  
三菱UFJニコス株式会社をはじめ、三菱UFJフィナンシャル・グループ各社

このほか、企業との協働で、辞書引き学習や学習旅行などを支援しました。





# ユネスコ協会就学支援奨学金

被災地の子どもたちの、進学や夢を支える支援

## 概要

対象者：津波による家屋の流失・損壊や原発事故の影響による避難などの理由で経済状況が著しく悪化した家庭の、高校進学を希望する中学3年生。(対象者の詳細は市町村により異なる)  
※震災による遺児・孤児を除きます。

対象地域：岩手、宮城、福島 の3県で、被害の大きかった市町村を特定して実施。

支援金額と期間：奨学生一人当たり月額2万円を3年間給付。  
(中学3年次から高校2年次の期間給付)

## 支援実績

2014年度は、2012年度、2013年度に給付を開始した奨学生への継続給付を行うとともに、新たに大船渡市といわき市で奨学生を募集しました。奨学金は、子どもたちのご家庭の口座に直接送金し、各ご家庭で高校進学に必要な費用や日々の学校生活のために役立てられています。

● 2014年度支援者数:833名

岩手県／大船渡市、釜石市、宮古市、山田町、陸前高田市

宮城県／女川町、名取市、東松島市、山元町

福島県／いわき市、相馬市、南相馬市

● 2014年度奨学金給付額:1億9951万円

● 2011～2014年度累計支援者数:2354名

※2011年度に給付を開始した岩手県／大槌町、宮城県／石巻市、気仙沼市、南三陸町、仙台市の奨学生に対しては2013年度末で3年間の給付が完了しています。

## 被災地では

護岸工事に加え、土地のかさ上げや区画整理、宅地造成などが行われている沿岸部での復興工事のため、大型トラックが日々行き交っています。プレハブの応急仮設住宅に代わる復興公営住宅の建設や入居も徐々に始まりましたが、いまだに仮設住宅での避難生活を余儀なくされているご家庭も少なく

なく、被災家庭が将来も安心して暮らせる住居を確保・再建するには、まだ遠い道のりがあります。そのような中で、子どもたちは日々成長していきます。町の復興とともに歩む子どもたちが、将来に夢を抱き安心して学校に通うことができるよう、奨学金支援を継続しています。

※Web版では実際の奨学生の画像の掲載を控えております。  
ご了承ください。

※Web版では実際の奨学生の画像の掲載を控えております。  
ご了承ください。

## ご支援いただいた主な企業・団体

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／赤城乳業株式会社／アクアクラ レモンガス グループ／アクサ生命保険株式会社／株式会社アートアルト／株式会社アトレ／NTTドコモグループ／オリックス米国財団／花王株式会社／カトリック上野毛教会／一般社団法人 銀座通連合会／グッチ ジャパン／有限会社クロフネプライダル／株式会社健康第一調剤薬局／株式会社光明工事／株式会社三喜／株式会社ジェイアール東日本都市開発／株式会社ジェイティービー／株式会社じぶん銀行／JAPONAIDE／株式会社JUN／株式会社生薬高度利用研究所／ジョルジオ アルマーニ ジャパン 株式会社／新コスモス電機株式会社／宗教法人真如苑／株式会社スペースシャワーネットワーク／株式会社セレスポ／一般社団法人全国信用金庫協会／ソニー生命保険株式会社／株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ／瀨祭醸造元 旭酒造株式会社／株式会社力の源カンパニー／3.11つなぎり募金実行委員会／株式会社Tポイント・ジャパン／一般社団法人TOKYO INSTITUTE OF PHOTOGRAPHY／東京大塚阿波おどり実行委員会／東芝テックソリューションサービス 社会貢献基金／東燃ゼネラルグループ／東レ株式会社／栃木ひいらぎ／株式会社トランスコンテナ／トレンドマイクロ株式会社／南部化成株式会社／日本テトラパック株式会社／宗教法人日本テラワダ仏教協会／一般社団法人日本の伝統を守る会／日本ホテル株式会社／BASFジャパン株式会社／フォーエバーリビングプロダクツ ジャパン／ブルーチップ株式会社／株式会社ブルーヒルズ／ベネッセ募金・ベネッセグループ／株式会社ベルセレージュ本社／マックスバリュ西日本株式会社／三菱UFJ国際投信株式会社／リコイメージング株式会社／各種企業・団体の皆さま／個人募金者の皆さま／各地ユネスコ協会・ユネスコクラブ(50音順・敬称略)

ユネスコ協会就学支援奨学金 詳しくは、<http://www.unesco.or.jp/kodomo/> をご覧ください。

# 奨学生からの「ありがとう」

僕はいま、受験生として勉強を頑張っています。

仮設住宅に住んでおり、勉強する場所もコタツ

しかありません。でも希望の高校へ入学するため、成績アップを目指しています。

社会人になったら、電気関係の仕事に就くのが目標です。

今、両親は、自宅再建に向けてがんばっています。

自分も両親に負けず、勉強とクラブ活動を頑張ります。

今日も学校に行ってきました。弁当と勉強

道具をリュックに入れて、朝食をしっかりと食べて、あたりまえのように行ってきました。

それから電車でゆられて、勉強をして、

また電車でゆられて、あたりまえのように一日を過ごしました。震災の時に、あたり

まえの事があたりまえと思えることのすばらしさを知りました。僕があたりまえな生活を

過ごしているのは、皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。

平成27年4月8日、新しい制服を身に着け

て、入学式に出席しました。(中略)一生懸命勉強をして、教師が警察官になりたい

と思います。東日本大震災当時は小学校5年生で、先生には勇気をもらい、その後

の復興には全国の警察の方がきてくださったからです。

そして、私が安心して学校へ通うことがで

きるのは、奨学金のために募金をしてくださる方々がいるからだだと思います。少しで

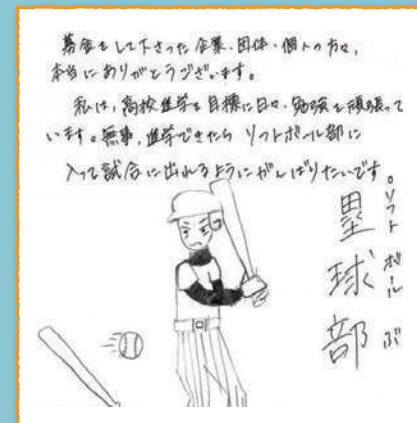
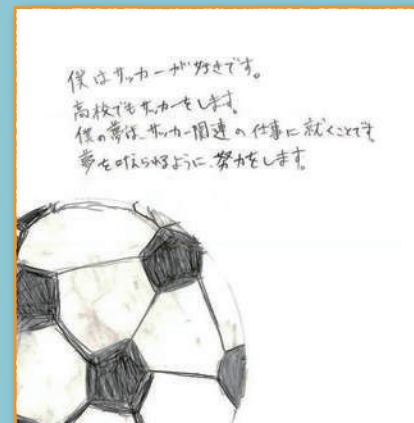
も誰かの役に立つ大人になりたいと思います。

水産高校では、2年生から実践的な実習

の授業が増えるので、頑張って取り組みたいと思います。家のホタテ養殖の仕事

にとっても役立つ授業も多いので、休みの日は、それを生かし家業の手伝いなども

していこうと思います。たくさんのご支援、ありがとうございます。



# 被災地の子どもたちはいま

東日本大震災から4年が過ぎたいまも、被災地では不自由な暮らしが続いています。そんな中、未来を見つめるユネスコ協会就学支援奨学金の奨学生たちの声を紹介します。

※文中のお名前はすべて仮名です。また、学年は2015年2月取材当時のものです。

## 高校でいろんなことを学びたい

宮城県山元町から仙台市内の高校に通うのは、川西ゆかりさん。得意な科目は体育で、とくにマット運動が好きな活発な女の子ですが、部活は茶道部を選びました。「何か新しいことをしたくて、茶道部にしました。練習のときは気持ちが静まるし、お菓子が食べられて(笑)、友だちもできて楽しいです」ゆかりさんの家は、海から1.5キロも離れた住宅地だったにもかかわらず、津波の被害を受けました。母の友江さんはこういます。「家は大規模半壊でしたが、なんとか修理して住んでいます。夫の会社が縮小になり、震災を機に転職したため、よそに移る余裕はありませんでした。それでも、ゆかりには高校だけは出させてあげたかった。だから、奨学金は本当に助かりました。ゆかりもいつか、何かの形でお返しできればと思います」奨学金は、制服や自転車、定期など、入学の準備に役立てられたそうです。山元町では、JR常磐線が津波で被災し、亘理駅から相馬駅までは代替バスとなりました。歩道も整備されておらず、歩

くのも自転車も危険です。そのため、友江さんは近くの高校に行ってほしいと思っていたましたが、ゆかりさんは列車通学となる仙台の高校を希望。見事、合格しました。卒業後は県内で就職するつもりです。そのためにも、いまは勉強に励んでいるといいます。そして、自分の住む町についてこう語ってくれました。「4年も経って、もう震災とか被災地とか、あんまり思わなくなりました。でも、人口が減って寂しくなった山元町には、早く鉄道が再開して、歩道もきちんと整備されて、人がいっぱい集まるような町になってほしいです」

※Web版では実際の奨学生の画像の掲載を控えております。ご了承ください。

## 遠い夢に向かってチャレンジ

宮城県に住む山口市香さんは、いま充実した高校生活を送っています。震災のときは小学6年生。家は流されなかったものの、津波で全壊したため、仕切りもない避難所で約1ヵ月過ごしました。やがて中学校に進学し、仮設住宅へ移ったある日、里香さんは突然、不登校になってしまいました。「ただ、ボツと学校に行きたくなくなりました。もともと小さいころから集団が苦手だったんです」窮屈な仮設住宅の環境もよくなかったのでは、と母の路子さんは考えました。新築わずか1年1ヵ月で全壊した家には、ローンだけが残っています。仮設住宅を出るには、この家をなんとかするしかありませんでした。苦しい資金繰りの中から家をリフォームし、一家が仮設を出たのは1年後のことです。一時は高校にも行かないといっていた里香さんですが、県内の高校に入学すると、すすんで生徒会活動にも参加するようになりました。「なんとか変わろうと思って(笑)。生徒会では卒業文集を編集したり、先生の意外な一面がわかって楽しいです」友だちもたくさんでき、アルバイトでは働くことの大変さを学びました。また、漢字検定にも挑戦。残念ながら試験には落

ちましたが、またチャレンジするつもりです。震災後は路子さんもパートで働き始めましたが、経済的に大変だったので、奨学金を受給することになりました。「本当に助かっています。3年間いただくと知っているだけで、気持ちにも余裕が出てきました」高校に入って、「少しは積極的になれたかなあ」という里香さん。いまはきちんと勉強して、高校を卒業することを目指しています。その先の夢もなんとなく描いているそうです。「最近すごく天体に興味が湧いてきました。あと、アニメが好きなので、アニメか天体、どちらかの仕事につけたらいいな。遠い夢ですけど、頑張ってみます!」

※Web版では実際の奨学生の画像の掲載を控えております。ご了承ください。

## これからの未来を広げるために

福島県相馬市に住む中山絵里香さんは、AKB48とディズニーが大好きな高校1年生。震災以来、この場所にたどり着くまで、絵里香さんと母の美智代さんは何度も移動を繰り返してきました。絵里香さんたちが住んでいたのは、双葉郡浪江町。東京電力福島第一原発から10キロ圏内に家があり、震災の翌日には、原発事故による避難命令が出ました。美智代さんはこういます。「避難するといっても、多分2、3日のことだと思ったんです。だから着の身着のままで家を出ました」しかし、そのまま二人は、南相馬から相馬、山形…と転々とすることに。以来、父の良文さんの単身赴任が続いています。「最初は紙1枚、鉛筆1本ありませんでした。一組の布団に二人で寝るような生活。絵里香は、机代わりに段ボール箱をひっくり返して…。胸が痛みました」とはいえ当の絵里香さんは、中学入学のため相馬に移り住むと次第に明るくなっていきました。「私は人見知りだけど、中学でいろいろ話せる友だちができて、毎日がすごく楽しくなったんです。いまは相馬が大好きになりました」そんな絵里香さんの夢は…。「医師になりたいのですが、パソコンが好きなので事務系の仕事もいかなと(笑)。そのために国立

大学を目指します」好きな科目は英語。去年の夏休みは企業の支援でアメリカに留学しました。今年は、学校からイギリス留学を推薦してもらえそうですが、どちらの留学も奨学金が頼り、と美智代さんはいいます。「アメリカ留学は無料でしたが、浪江の家からものを持ち出せないで、準備にお金がかかりました。イギリス留学にもお金がかかります。でも、できれば行かせてあげたい。奨学金は、長い目で見て絵里香の人生に役立つことに使えればと思っています」新築だった浪江の家に戻ることは、もう叶いません。日々の生活費も切り詰める毎日で、奨学金は絵里香さんの未来を広げるために役立てられています。

※Web版では実際の奨学生の画像の掲載を控えております。ご了承ください。

## ぼくは、やっぱり福島がいい

福島県相馬市に住む高校生、佐藤智成さんのふるさととは、双葉郡浪江町の請戸(うけど)地区。東京電力福島第一原子力発電所から、わずか6キロの距離です。両親ともに漁業協同組合関連の仕事をしていることもあり、幼いころから請戸港で獲れた新鮮な魚を食べて育ちました。父も母も請戸の出身で、地域全体が家族のようだったといいます。そんな平和な生活を一変させたのが、東日本大震災と原発事故でした。智成さんは当時、小学6年生。「海のそばにあった家は津波で流されて、次の日の朝、避難命令が出て、午後には原発が爆発。それからぼくらは、いろんなところで暮らしてきました」3月末には、親戚を頼って千葉県成田市へ。故郷から遠く離れて、智成さんは次第に心のバランスを崩していきました。そして1年後、相馬市に部屋を見つけて再び福島へ。いま智成さんは「やっぱり福島がいい」といいます。請戸に住んでいた人たちは、ちりぢりになってしまったけれど、請戸時代の友だちとは、いまもたまに集まります。「そのつながりは、一生大事にしたいぼくの宝物です」高校1年となった智成さん、部活では「放送局」に所属し、ドキュメンタリーやドラマの映像作品をつくっています。「震災で自分が体験し、実感したことをいつか作品にしたい。

いま皆で案を出しながら考えているところです」作品をつくるだけでなく、将来は、震災での体験を活かせる防災関係の仕事にもつきたいと考えています。そしてもうひとつ、智成さんがなりたい職業があります。「両親が漁協関係者で、ぼくも生まれたときから港町にいたので、漁業に関連する道に進んでみたい」いま請戸港は、母の幸子さんから漁協と漁業者たちの努力で、操業再開を目指しています。請戸は津波警戒区域のため、再び人が住むことはできませんが、港を再開することはできます。静かになった請戸の港に、たくさんの大漁旗がはためくこと。それは、請戸で生まれ育った智成さんの夢でもあるのです。

※Web版では実際の奨学生の画像の掲載を控えております。ご了承ください。



保護者から「ありがとう」

3年間の給付が完了したユネスコ協会就学支援奨学生の保護者から、支援者の皆さまへお手紙が寄せられました。一部抜粋してご紹介します。

大人でさえも受け入れられない現実

空爆にでもあったような変わり果てた町の姿にショックは大きく、無力な自分に情けなくなる日々でした。大人でさえも受け入れられず、何度も悪い夢なんじゃないか…と変な錯覚に陥る日もありました。そんな中、娘が持ち帰った奨学金のプリントには、大変心強い支援の内容が書かれていました。背中を押してもらったように、頑張らなくては…と前向きに考えるきっかけとなり、一日一日を大切に生きなければと思うようになりました。

息子の夢をつぶしたくない

震災当時は家のことで頭が一杯で、息子の夢まで頭が回らず、後回しにしていた気がします。そんなとき奨学金の話を聞いて、息子に将来のことを聞いてみたら、舞台照明をやりたいといわれました。正直驚きましたが、震災で息子の夢をつぶしなかったのが、奨学金には本当に感謝しています。どうかこれからもいろいろな子どもたちが夢を追えるように、ご助力願います。

厳しい状況でのスタートでしたが

4年前の震災時は中学2年だった息子も高校進学を希望し、厳しい状況でのスタートを切ったことが思い出されます。そのような中で、奨学金を受け、息子も不自由なく高校生活を送ることができています。復興の道のりはまだまだ陰しく、支援を望む方も多いと思います。これからも奨学金がそのような方たちの励みになればと思います。

子どもの未来が明るくなってきた

住宅ローンが23年も残っていた家が全壊し、野球に一生懸命だった息子の未来が見えなくなっていました。支援のおかげで、高校でも野球を続け、子どもの未来が明るくなってきました。

進学をあきらめかけている

子どもたちのために

津波により閑上（ゆりあげ）へ帰ることができず、先の見えない生活をおくっていました。そんな中、息子の進学の際に奨学金のお話をいただきました。私たちのように、被災して進学をあきらめてしまう、また、あきらめかけている子どもたちに、この奨学金事業を継続していただければと思います。

毎日楽しく学校に通う姿が

一番の心の支え

奨学金の支援を受けられることになり、息子と話し合っ、奨学金をどのように役立てるか考えました。息子は、もう一度勉強のやり直しを決めました。高校に入ってから、ますます自信を取り戻し、何に対しても一生懸命取り組む姿が見られるようになりました。何より明るくなって毎日楽しく学校に通う姿が、私にとって一番の心の支えです。家を建てて何年もしないうちの震災で、住宅ローンを抱え、家を直すためのローンも抱えた中での奨学金は、息子にとっても我が家にとっても本当に感謝しきれないほどの贈りものでした。

会計報告

2014年度 東日本大震災子ども支援募金事業  
(2014年4月1日～2015年3月31日)

①MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

(単位:円)

項 目	金 額
前期繰越	1,356,367,911
寄附額	407,989,594
支出額	279,940,000
奨学金	257,840,000
事業経費	22,100,000
次期繰越	1,484,417,505

※MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金は2014年度まで新1年生を募集し、奨学生が高校を卒業する2025年度まで継続されます。  
※次期繰越金は、2025年度までの奨学金事業に使用されます。

②ユネスコ協会就学支援奨学金

(単位:円)

項 目	金 額
前期繰越	465,581,232
寄附額	271,733,118
支出額	235,029,848
奨学金	199,516,000
事業経費	35,513,848
次期繰越	502,284,502

※ユネスコ協会就学支援奨学金は、原則として、奨学生1人につき3年間にわたって支援します。  
※次期繰越金は、2015年度以降の本奨学金事業に使用されます。

③減災教育・相撲場支援・交流活動・学習支援等

(単位:円)

項 目	金 額
前期繰越	11,152,692
寄附額	19,026,694
支出額	25,884,339
支援物資	20,630,487
事業経費	5,253,852
次期繰越	4,295,047

※相撲場支援等、年度をまたいで支援が完了するものがあります。次期繰越金は、それらに使用されます。

※当会計報告は、日本ユネスコ協会連盟が公認会計士および監事による監査を受けた計算書類をもとに、個別の活動のようすをわかりやすくお伝えるためにまとめたものです。

ご協力いただいた皆さま

日本ユネスコ協会連盟が行う教育復興支援活動は、  
以下の企業・団体をはじめとする多くの皆さまから温かいご協力をいただいております。  
この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

 あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社	 あそびましょ。 赤城乳業株式会社	 アクアクララ レモンガス グループ	 アクサ生命 アクサ生命保険株式会社
 株式会社アートアルト	 株式会社アトレ	 NTTドコモグループ	 オリックス米国財団
 花王株式会社	 カトリック上野毛教会	 一般社団法人 銀座通連合会	 グッチ ジャパン
 有限会社クロフネブライダル	 株式会社 健康第一調剤薬局	 株式会社光明工事	 株式会社三喜
 株式会社ジェイアール 東日本都市開発	 感動のそばに、いつも。 株式会社ジェイティービー	 株式会社じぶん銀行	 JAPONAIDE
 株式会社JUN	 株式会社 生薬高度利用研究所	 ジョルジオ アルマーニ ジャパン 株式会社	 新コスモス電機株式会社
 宗教法人真如苑	 株式会社 スペースシャワーネットワーク	 株式会社セレスポ	 一般社団法人全国信用金庫協会
 ソニー生命 ソニー生命保険株式会社	 株式会社 ソニー・ミュージックアーティスツ	 獺祭醸造元 旭酒造株式会社	 CHIKARA no MOTO COMPANY 株式会社力の源カンパニー
 3.11つながり募金 実行委員会	 株式会社Tポイント・ジャパン	 一般社団法人 TOKYO INSTITUTE OF PHOTOGRAPHY	 東京大塚阿波おどり 実行委員会

 東芝テック ソリューションサービス 社会貢献基金	 東燃ゼネラルグループ	 東レ株式会社	 栃木ひいらぎ
 株式会社トランスコンテナ	 Securing Your Journey to the Cloud トレンドマイクロ株式会社	 南部化成株式会社	 日本テトラパック株式会社
 宗教法人 日本テラウダ仏教協会	 一般社団法人 日本の伝統を守る会	 日本ホテル株式会社	 BASFジャパン株式会社
 フォーエバーリビング プロダクツ ジャパン	 ブルーチップ株式会社	 株式会社ブルーヒルズ	 ベネッセ募金・ベネッセグループ
 株式会社ベルセラージュ本社	 マックスバリュ西日本株式会社	 三菱UFJフィナンシャル・グループ	 三菱東京UFJ銀行
 三菱UFJニコス	 三菱UFJ国際投信	 カ士会	 イメージング株式会社
 三菱UFJニコス株式会社	 三菱UFJ国際投信株式会社	 カ士会	 リコーイメージング株式会社

ご協力いただいた皆さま

- 個人募金者の皆さま ..... 全国の個人募金者の皆さまからも多大なご支援をいただきました。
- 企業・団体の皆さま ..... 上記でご紹介しきれなかった企業・団体の皆さまからもたくさんのご協力をいただきました。
- 子どもたちから子どもたちへ ... 幼稚園から大学まで、子どもたちや学生さんからも、東北の子どもたちのために心のこもったご寄附が寄せられました。
- ユネスコ協会・会員の輪 ..... 日本各地のユネスコ協会も継続した支援活動を行っています。また、維持会員・賛助団体会員・個人会員の皆さまからも温かいご協力をいただき、ユネスコ精神が集結しました。

広報協力

久保純子／ジャン＝マルク・ルイサダ／テラウチマサト／株式会社電通テック／二村英仁／白鵬関／株式会社ハースト婦人画報社

東日本大震災子ども支援募金

# ユネスコ協会就学支援奨学金

皆さまからのご寄附をお願いします

以下の「ユネスコ協会就学支援奨学金」の専用募金口座までお願いいたします。

**三菱東京UFJ銀行 神田支店 (普)0297275**

**名義: シャ) ニホンユネスコキョウカイレンメイ**

領収書が必要な方は、お手数ですが、日本ユネスコ協会連盟までご連絡ください。

日本ユネスコ協会連盟へのご寄附は、寄附金控除等の対象になります。

お問い合わせ 03-5424-1124 (9:30~17:30 / 土・日・祝日を除く)

## 日本ユネスコ協会連盟

日本ユネスコ協会連盟は、1947年に世界で初めて仙台で誕生した民間のユネスコ組織「ユネスコ協力会」(現・ユネスコ協会)の連盟体として、国内外でさまざまな活動に取り組んでいます。

“戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない”と謳うUNESCO(国際連合教育科学文化機関)憲章の理念にもとづき、世界平和と人類共通の福祉を実現するために、国際相互理解の促進とユネスコ精神の普及を目的としています。

## さまざまな活動

東日本大震災子ども支援のほかにも、さまざまな活動を行っています。

### 世界寺子屋運動 “きょういくで、あしたへいく”

カンボジア、アフガニスタン、ネパールで、学校に通えない子どもや、教育を受ける機会を逃した大人たちに学びの機会を提供。貧困のサイクルを断ち切り、明日を生きる力を育てます。



### 世界遺産活動 “人類共通のたからもの、世界遺産”

世界の貴重な文化や自然を人類共通のたからものとして、次世代に伝える活動を行っています。カンボジアのアンコール遺跡群では修復事業や人材育成を行っています。



### 未来遺産運動 “日本のこころを、あしたへ伝える”

100年後の子どもたちに、日本の大切な自然や文化を伝えたい。そんな思いから、日本各地の市民活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、応援します。



### 青少年育成活動

ユネスコ協会ESDパスポート、子どもキャンプ、海外スタディツアー、出前授業、活動助成など、地域や学校と連携して次世代の育成を行っています。



公益社団法人  
**日本ユネスコ協会連盟**

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階  
TEL: 03-5424-1121 FAX: 03-5424-1126  
<http://www.unesco.or.jp> E-mail: [nfuj@unesco.or.jp](mailto:nfuj@unesco.or.jp)